

絹委員会
中国シルク市場調査報告書

浙江省杭州市～陝西省西安市

広西チワン族自治区南寧市～杭州市

2009年10月

日本絨維輸入組合

目 次

《はじめに》	2
一、団員名簿	3
二、日程表	4
三、浙江省、陝西省、広西クワン族自治区一般概況	5
四、訪問先と面談者	8
五、団長挨拶の要旨	10
六、主な訪問先概要	12
【参考：東桑西移の政策概要】	
七、市場調査団員の報告	17
・宮崎 満 ((株) GSI クレオス)	
・吉岡正博 (北西産業 (株))	
・松村 滋 ((株) 松村)	
・渡邊 大 (同興商事 (株))	
・潘 林 龍 (中和 (株))	
・周 萌 (通訳)	
《随想「新シルクロードをたずねる」》	31
《あとがき》	33
資料：2008年中国省別家繭・生糸生産量、中国のシルク粗原料の輸出数量	34
参考：中国蚕絲交易網： 「広西大宗蚕絲交易市場有限公司との懇談」	36
(付属)	
デジカメでみる一週間のものがたり	

《はじめに》

絹委員会としての訪中は、2005年6月に派遣してから4年が経ちました。今回は、絹需要振興の一環事業としてシルク製品の主要な縫製企業を中心に訪問し、更には繭原料の中国一の生産地である広西チワン族自治区の養蚕地帯の製糸工場を組み入れた日程で杭州、西安、南寧を訪問しました。各地の経済発展のスピード、経済特区の建設ラッシュ、市内の朝夕の乗用車の多さによる渋滞と人々の活気には感嘆しました。

日本繊維輸入組合を受け入れてくれた **CATHAYA GROUP** は、浙江省絲綢進出口会社の流れを汲む中国でトップクラスのシルクの貿易、情報発信企業として、繊維輸入組合とは、長い友好関係を保ってきており、会員間の取引も盛んであります。一方、浙江省は、中国全体のシルク産業の中心となっていることから **CATHAYA** を中心に農業問題が絡む繭生産の動向に責務を負っているとのことでした。

杭州を出発して5日後に杭州に戻ってくる壮大な日程で、杭州では、紡糸から縫製、デザインまでの一貫生産で **High Fashion co ltd**、中国一の世界戦略の企業などを中心に訪問し、西安では、長い歴史のある陝西省絲綢進出口会社の流れを汲む陝西開成服装進出口有限公司を訪問しましたが、シルクについては、内地用の縫製品以外原料の輸出、国内取引が中心とのことでありましたが、シルク交易の発祥の地には変わりありませんでした。

広西チワン族自治区の南寧市は、看板の漢字がなければ風景、人種で中国以外の国のようであり、また、ここは、中央政府の厚い保護があり、中国の民営化の流れが遅いと感じられました。広西絲綢（集団）有限公司を訪問し、中央政府の農業問題、東桑西移の政策により繭生産が中国一になっているが、各農家よりバラバラに集繭することから繭質が不揃いとのことで、近々、品質管理センターを立ち上げるとのことで期待したいところです。

しかしながら、本来の天然繊維の持っている良さを活かした糸を使った新しい用途開発、新規洋品、家庭品に応用する発想があれば、需要の振興が可能になるのではないかと考えると **EU**、米、日本のシルク需要が減退しているのに、インドについては、中国の最大の輸出国になっているのが理解できるような気がしました。

今回は10月13日（火）から18日（日）まで、浙江省杭州市、陝西省西安市、広西チワン族自治区南寧市と時間の許す限り各地を訪問し、見聞を広めることが出来ました。

団長 宮崎 満

一、団員名簿

中国市場調査派遣の名簿

	氏名	組合役職	会社名	会社役職
団長	宮崎 満 MIYAZAKI MITSURU	委員長	(株)G S Iクレオス	常務取締役 繊維事業部門統括 兼大阪支店長
団員	吉岡 正博 YOSHIOKA MASAHIRO	副委員長	北西産業(株)	代表取締役 社長
〃	松村 滋 MATSUMURA SHIGERU	委員	松村(株)	代表取締役 社長
〃	渡邊 大 WATANABE TSUYOSHI	委員	同興商事(株)	代表取締役 社長
〃	潘 林 龍 PAN LIN LONG	委員	中和(株)	代表取締役 社長
〃	神保 敬一 JIMBO KEIICHI	事務局	日本繊維輸入組合	業務部 部長
通訳	周 萌 ZHOU MENG	現地参加		

2009年10月

日本繊維輸入組合 絹委員会

二、日程表

絹委員会中国市場調査派遣日程表

日次	月日 (曜)	地名	現地時間	交通機関	行程
1	10月 13日 (火)	成田 発 杭州 着 関空 発 杭州 着	09:55 12:15 10:35 12:10 18:00	JL635 NH951 専用車	絲綢城、絲綢マーケットの市場調査 浙江凱喜雅集團 (CATHAYA) 浙江凱喜雅國際股份有限公司 【旧浙江省絲綢進出口公司】(歓迎会李港林董事長主催) (Zhejiang Hotel) <杭州泊>
2	14日 (水)		08:30 09:30 11:45 12:15 14:30 18:30 20:00	専用車	浙江凱喜雅集團 (CATHAYA) 浙江凱喜雅國際股份有限公司との懇談 答礼小宴 (宮崎団長主催) 華鼎集團控股有限公司 (China Ting) 杭州慶富絲綢服裝有限公司 夕食会 (佐藤總經理、陳董事長を囲んで) (Zhejiang Hotel) <杭州泊>
3	15日 (木)	杭州 発 西安 着	08:00 09:00 13:15 18:30 20:50	専用車 HU7814	浙江凱喜雅華豪針織股份有限公司 (德清) 達利集團 (High Fashion) (張麗輝副總經理) (Hyatt Regency Xi an) <西安泊>
4	16日 (金)	西安 発 南寧 着	09:00 09:30 14:00 19:20 22:30	専用車 CZ3276	陝西省開成服裝進出口有限公司 陝西省開成投資實業有限責任公司との懇談 (Guangxi Wharton International Hotel) <南寧泊>
5	17日 (土)	南寧 発 杭州 着	07:30 09:30 13:30 15:30 18:05 20:10	専用車 ZH9342	橫鼎桂華蛋絲綢有限責任公司 広西絲綢 (集團) 有限公司との懇談 広西大宗蛋絲交易市場有限責任公司との懇談 (Zhejiang Hotel) <杭州泊>
6	18日 (日)	杭州 発 成田 着 杭州 発 関空 着	09:00 10:00 13:15 17:20 13:40 17:00	専用車 JL636 NH952	杭州富強絲綢有限公司

三、浙江省、陝西省、広西チワン族自治区の一般概況

一、浙江省【略称：浙】

1. 省都：杭州市
2. 地級行政区（11 個）：杭州市・温州市・台州市：寧波市、他 7 市
3. 面積：101,800 平方キロメートル
4. 人口：5,060 万人（2007 年）
5. GDP：21,500 億元（2008 年）
6. 主要民族：漢民族（99.14%）/シエ族（0.37%）
7. 気候：亜熱帯気候に属し、四季がはっきりし、降雨量が豊富である。年間平均気温は摂氏 15-18 度、年間平均降雨量は 1100-1900 ミリである。

8. 概要：

浙江省は、華東地区中部に位置し、東シナ海に面する。浙とは省内最大の河川・銭塘江を指す。銭塘江は蛇行が激しいことから、曲江・之江・浙江・浙江などと呼ばれてきた。また、浙江省は、中国最大都市上海に隣接し、「七割が山、一割が水、二割が水田」と言われ、自然が豊かで、昔から「魚米の里、シルクとお茶の産地、文化財の邦、観光の地」と呼ばれている。

9. 略史：

春明時代の越国、戦国時代に入り楚に属した。秦始皇帝により統一され、会稽郡が設置された。漢代には揚州に属し、三国時代には呉の領域に入った。唐代に浙江東西両道が置かれ浙江の名が使われた。五代十国時代には杭州を都とする呉越国が成立した。北宋が南渡して杭州は南宋の都となり、元代に浙江行省が設置され、明には浙江布政司、清代に浙江省が成立した。

【杭州市】

浙江省の省都（副省級市）であり、中国八大古都の一つであり、国家歴史文化名城に指定されている。

隋代以降、江南運河の終着点として経済文化が発達し、「天に天堂あり、地に蘇杭あり」と謳われた。また、五代十国の時代、呉越国の都となり、南宋時代には事実上の首都、臨安府が置かれた。杭州市は浙江省の北部にある。浙西中山丘陵の中部、浙北平原の中西部に位置し、山地丘陵がおおよそ三分の二を占める。地勢は西南から東北へ向かってゆるやかに傾斜している。市域を富春江・銭塘江が貫流し、市の中心部は銭塘江の下流、京杭運河の南端に位置している。かつて城壁に囲まれていた市の中心部の西側には、西湖という湖があり、西湖は西、南、北の三方を山に囲まれ、風光明媚な名勝として内外に知られている。

二、陝西省【略称：陝】

省都は西安市で、黄河中流に位置し、陝西省と山西省の境をまっすぐ南下した黄河は潼関付近で直角に流れを変え西進を始める。地勢は大きく北部の陝北高原、中部の関中平原、南部の秦巴山地の3つに分かれている。陝北高原は黄土高原の中央に位置し、黄土塬や梁、茆と呼ばれる黄土特有の丘陵・台地が広く分布している。関中は渭河による沖積平原で、四方を山に囲まれ、東の函谷関・南の武関・北の肅関・西の散関の四つの関門の内側にあることからその名がついた。秦巴山地は関中の南の秦嶺山脈と、四川省との境にある大巴山地の総称で、両者の中間には漢水沿いに漢中、安康の盆地がある。

【西安市】

西安市は、陝西省の省都であり、古くは中国古代の諸王朝の都となった長安である。国家歴史文化名城に指定されている。経済的重要性から大幅な自主権を持つ副省級市にも指定されている。中国関中平原の中部に位置し、北には渭水が東西に流れ、南は秦嶺山脈が東西に走っている。

- 1) 面積：9,983 平方キロメートル、
- 2) 人口：約 680 万人（市街地の人口約 300 万人を占める。）
- 3) 気候：温帯大陸性気候
- 4) 温度：平均温度は 13 度
- 5) 略史：

紀元前 11 世紀から西暦 9 世紀にかけて、中国の政治・経済・文化の中心であり、西周・前漢・新・晋・前趙・後秦・西魏・北周・隋、唐の諸王朝となった。

省内には黄河が流れ、省都は西安、陝西省の陝から、略称は陝。古代中国の長安一体の地域であり、秦の都咸陽、前漢・唐の都長安があった地である。北部は、内蒙古自治区と接し、また、北部の延安は中国革命の聖地として名高い。東部は、山西省・河南省と接している。西部は、寧夏回族自治区・甘肅省と接している。南部は、四川省・重慶市と接している。東南部は、湖北省と接している。陝西省の主要都市：西安市・延安市・咸陽市・華陰市・宝鶏市である。

三、広西チワン族自治区

1. 区都：南寧市
2. 略称：桂
3. 主要都市：南寧、柳州、桂林、北海など
4. 面積：23.67 万平方キロメートル
5. 人口：4,719 万人(2006)
6. 一人当たり GDP：10,240 元(2006)

7. 概略：

広西チワン族自治区（日本の県に相当する）は、中国大陸の南端に位置し、ベトナムと国境を接している。最も美しいカルスト景観・桂林を有し、多くの少数民族人口を抱えるとともに、中国の「歌の神様」とされる劉三姉の故郷で昔から名が高い。20世紀70、80年代において、中国・ベトナム戦争で最前線に位置していた影響もあって、経済的には今なお立ち遅れているが、現在、西部大開発の熱気が高まる中で、ASEAN各国と中国との交流拠点として中国国内で注目を集めている。

【南寧市】

1. 面積：22,293 平方キロメートル
2. 人口：約 295 万人（チワン族が全市人口の 56.3%を占める。）
3. 気候：海洋から遠くないため高温多湿
4. 概要：

自治区の西南部に位置し、「花が一年中咲き、樹が常緑であり、果物が一年中熟する」という中国の「緑街」と言われている。歴史的に中国南部国境の重要な街である。南寧国際空港までは約 30km。サトウキビ、果物、野菜、カリン、キャッサバ、米が主な農産物。また製薬、電子情報、機械電子等を中心とする新興産業団地になっている。また、広西の教育の中心であり、自治区の 80%の大学が南寧市に集中している。また、毎年「南寧国際民謡祭」及び大型経済貿易商談会を開催し、世界各国の有名な芸術家を招聘して多彩なイベントを行い、また、国内外の有名な企業を招請し商談を行っている。

南寧市は、広西壮族（チワン族）自治区の首府である。面積は約 1 万キロ平方メートルで、中心地は約 85 平方キロメートルである。人口は約 280 万人、そのうち中心地に約 90 万人が居住している。民族は漢族、壮族（チワン族）が大半を占め、南方人の特徴である、丸顔で小柄の人が多い。他の民族としては苗（ミャオ）族、瑶（ヤオ）族、毛南族、イ同（トン）族、ムーラオ族、水族、京族など 30 強の民族が居住していると言われている。歴史的を遡ると古代南寧は百越国の領地であった。秦の始皇帝の時代は桂林郡が管轄し、西漢の漢武帝は玉林郡に管轄。東晋大興元年（318 年）に今の南寧市に大興郡が置かれ郡府もそこに置かれた。ここから南寧市の歴史が始まったと言われる。千年以上も歴史が続く由緒正しき都市である。

四、訪問先と面談者

1 日目

《浙江省》

浙江凱喜雅集團 (CATHAYA GROUP) & 浙江凱喜雅國際股份有限公司

1. 日 時：2009年9月14日(水) 9:30~11:45
2. 場 所：杭州市
3. 面談者：総 裁 李继林 (L i J i L i n)
副 総 裁 吳金根 (W u J i n g e n)
總裁助理 呂 幸 (L u X i n g)

華鼎集團控股有限公司 (CHINA TING GROUP)

1. 日 時：2009年9月14日(水) 14:30~17:30
2. 場 所：杭州市
3. 面談者：副總裁 方 陸 (F a n g L o n g)

杭州藤富絲綢服裝有限公司

1. 日 時：2009年9月14日(水) 18:30~19:30
2. 場 所：杭州蕭山經濟技術開發區
3. 面談者：總經理 佐藤 弘 (S a t o H i r o s h i)

2 日目

浙江凱喜雅華豪針織有限公司

1. 日 時：2009年9月15日(木) 9:30~11:30
2. 場 所：德清經濟開發區
3. 面談者：總經理 丁政华 (Z h e n g h u a D i n g)

達利集團 (HIGH FASHION CO., LTD.)

1. 日 時：2009年9月15日(木) 14:30~16:30
2. 場 所：杭州市
3. 面談者：副總經理 張躍權 (B y r o n Y. Q. Z h a n g)

3日目

《陝西省》

◆陝西開成服装進出口有限公司&陝西開成投資實業有限責任公司

1. 日 時：2009年10月16日(金) 9:30~11:30
2. 場 所：西安市
3. 面談者：総経理 李文琦 (L i W e n Q i)

4日目

《広西チワン族自治区》

◆横县桂华茧丝绸有限責任公司

1. 日 時：2009年10月17日(土) 9:30~11:30
2. 場 所：広西横県
3. 面談者：董事長 卢受坤 (L u S h o u K u n)

◆广西丝绸(集团)有限公司&广西茧丝绸行业协会

1. 日 時：2009年10月17日(土) 13:30~15:00
2. 場 所：南寧市
3. 面談者：総経理 藍樹思 (L a n S h u S i)

◆广西大宗茧丝交易市场有限責任公司

1. 日 時：2009年10月17日(土) 15:30~16:30
2. 場 所：南寧市
3. 面談者：常務副総裁 陈晖 (C h e n H u i)

5日目

《浙江省》

◆杭州富强丝绸有限公司

1. 日 時：2009年10月28日(日) 10:30~12:00
2. 場 所：萧山經濟技術開發区
3. 面談者：董事長&総経理 陈张仁 (C h e n Z h a n g R e n)

五、団長挨拶の要旨

日本繊維輸入組合の長年のテーマであるシルクの需要増進に対して「一般消費者に対するシルク製品需要増進の方策」提言を絹委員会できりまとめました。日本のシルク産業の取り巻く環境は、2006年の呉服小売の大型倒産に端を發して、また、一昨年来の世界経済危機が未だに尾を引いており、国内の主な絹織物産地の生産が年々大幅減少になり厳しい状況が続いております。

日本の衣料市場は、ファッション性、低価格商品を提供するユニクロを筆頭にスペインのZARA、ノルウェーのH&M、アメリカのFOREVER 21などがヤング層に受け入れられていますが、日本を代表する大手百貨店の衣類販売においても価格見直し、値ごろ感を打ち出してきており、我われが狙う層の商品は、シルク製品に限らず非常に厳しい商戦になってきております。シルクを考えた場合には、ネット販売のパジャマ、インナーについては、リピーター層に支えられて利益を出しているようですが、富裕層に対する外衣においては、シルクは扱い難いというイメージがありシルク離れが進んでいます。一般衣料においても上代価格が押さえられることにより、セルロース系のレーヨンやアセテートに代替されている状況にあります。

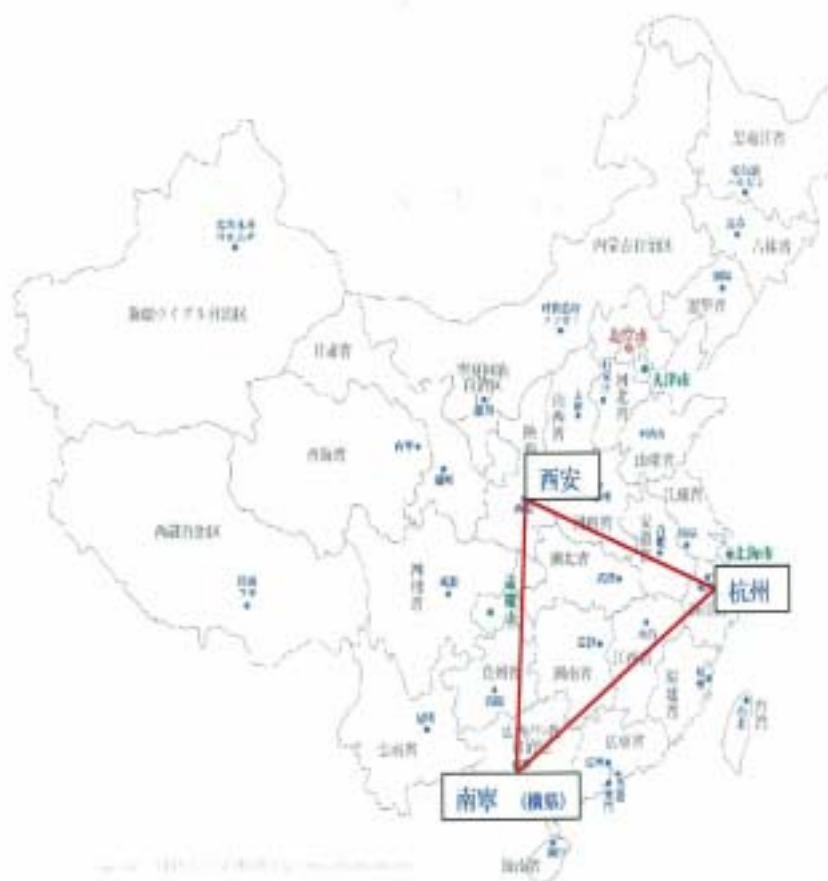
ちなみに、シルクを含む日本の繊維製品の全体の輸入状況では、2009年1～8月期に円ベースでは1兆8600億円（前年同期比90.3%）ドルベースで195億ドル（前年同期比100.3%）このうち、衣類が80.0%、その他インテリア等の二次製品が12.7%と製品輸入が92.5%を占めております。残り7.5%が糸、織物になっております。また、貴国からは、金額ベースで全体の78.9%を占めております。このような状況では、生糸、絹糸（0.1%）、絹織物（0.2%）の輸入で、粗原料での輸入を促進することが日本の国内の加工場の衰退により困難になってきております。我が国の生糸の関税割当数量は、昨年度は26,000俵ですが、輸入が半分も消化されていません。本年度は20,000俵の申請ですが、履行することが大変厳しい状況にあり、現在の世界のシルクの置かれている状況では、日本が必要とする27D x 5 & 6 Aクラスの中国のオファー価格では購入することができない環境にあります。

日本を代表する大日本蚕糸会の蚕糸・絹業提携支援センターが純国産を御旗に35億円の国からの助成を受けて、主に和装を中心に需要の促進事業を行っております。日本繊維輸入組合としては「シルクの価値創造に関する調査事業」として、2,000万円の政府助成を受けて、和から離れ洋の部分でシルク100%の素材から他の天然繊維との複合素材、機能

素材を開発して、すぐに効果は期待できないところもありますが、消費者にシルクの良さを再認識してもらう事業を開始しました。

このようなわが国の絹製品の輸入状況においては、富裕層向けの国内産シルク製品、欧米のブランド製品以外、衣類に関わらず、インテリアなどライフスタイル全般が、中国からの製品輸入になっております。今回、繭原料からシルク製品まで生産している中国の現状を調査し実態を把握することによって、わが国のシルク需要増進の道標とすべく、訪問することになりました。

以 上



六、主な訪問先の概要

・浙江凱喜雅集團（CATHAYA GROUP）の概要

本部は、浙江省杭州市に拠点を置き、国際貿易に関して専門会社として研究開発、製造の取引を一貫集積した非国営の企業です。浙江凱喜雅集團は、6企業分公司と内外に20企業の子会社を有しています。「CATHAYA」ブランドは、商務省によってリストアップされ、中国の最初の **batch of High Quality Silk** でもあり、中国絲綢協會（CSA）によって正式認可されました。CATHAYA ブランドは、生糸、絹生地と絹の衣類に与えられました。国際貿易取引と専門知識との経営陣チームを統合して、研究開発、製造と取引を行っています。

絹織物、捺染、精製、染色、衣類とアクセサリ製造においては、生産能力を大きくするために開発され、最新の先進技術で、1,000種の新しく設計された新商品を研究開発センターで企画、設計されています。それは国内外で高い評価を得ることになりました。

重要なことは、「顧客が、一緒に **Working** と **Enjoying** することにあります。」そして、**ISO 9001 Quality Certification** を達成して、我々は **80** カ国以上の国と地域から経済協力を含め、長期取引として1,500企業以上の顧客との技術協力を確立しました。

貿易板块：

- ・市場拓展分公司 浙江凱喜雅同創進出口有限公司
- ・蠶絲分公司 浙江凱喜雅貿易發展有限公司
- ・服裝分公司 浙江凱喜雅服飾有限公司
- ・絲織品分公司 浙江凱喜雅物資進出口有限公司
- ・紡織品分公司 浙江凱喜雅輕紡進出口有限公司
- ・成品分公司 上海凱喜雅國際貿易公司
- ・日本萊蒙貿易株式會社・浙江絲綢（美國）有限公司・凱喜雅（香港）公司

工業板块：

- ・深圳華絲企業股份有限公司・杭州華誼服裝有限公司・浙江凱喜雅華開服裝有限公司
- ・浙江凱喜雅華蒙針織有限公司・浙江華宇絲綢領帶有限公司・浙江華標織唛有限公司
- ・紹興凱喜雅服裝有限公司・德清凱喜雅投資發展有限公司

房地产板块：

- ・浙江凯喜雅房地产开发有限公司

科技文化板块：

- ・浙江丝绸科技有限公司・浙江凯喜雅广告有限责任公司

・華鼎集團 (China Ting Group) 概要

1992年に成立した中国の主な省の大型製造業者の協力を得て、輸出業と小売商を行っている。中国での生産施設は、杭州華鼎工業団地に位置し、2003年の生産開始、最も大きい絹織物服装輸出業者で、同時に中国で最も大きい絹織物服装製造業者です。華鼎集團の本部は、香港に拠点を置き、事業は中国浙江省杭州市を中心に江蘇省と深圳に生産基地を擁している。

主要な業務は3点が挙げられる。

- * 国際著名な流行の服装商標として、ナショナルチェーン店、百貨店に混紡使いの新商品を生産し提供する
- * 国内市場においては、婦人服のブランドファッション商品を製造して小売りを経営する
- * 企業は、完全一貫生産を目標し業務、製造、小売りを行う

【華鼎集團の関連企業】

浙江華勵時裝有限公司 浙江富成時裝有限公司 浙江信安時裝有限公司
浙江華鼎金誠絲綢有限公司 浙江創越時裝有限公司 浙江華鼎針織品有限公司
浙江華鼎時裝有限公司 浙江富豪時裝有限公司 杭州富鼎時裝有限公司
杭州富成時裝有限公司 深圳華越絲綢製品有限公司 江蘇富澤紡織有限公司
杭州華鼎西服時裝有限公司 杭州華星絲綢印染有限公司

・杭州藤富絲綢服裝有限公司の概要

1994年にシルク製品の縫製工場としてスタートしたが、現在はカーテン、インテリア製品を中心に縫製し、ほとんどが日本のユーザーに伊藤忠ホームファッション（株）経由で輸出している。杭州蕭山經濟技術開發区の繊維業以外の開発が進み、また、労働法改正によって、工賃のアップで200名弱の平均賃金は約900元/月(社会保障費含まず)。採算ぎりぎりの状態にある。

・浙江凱喜雅華豪針織股份有限公司の概要

工場は、CATHAYAの集団企業の一部であり、5年前にイタリアから自動編み機を導入して、絹の継ぎ目のない下着生産を開始した。現在では先進のIT器材と技術力を持って、4アイテムの商標登録と特許を取得して世界から信頼を得ている。

現在、40セットの完全形成自動編み機を所有し、年間の生産品は、スパンデックス継ぎ目のない下着、衣類とアクセサリーのある絹/スパンデックス、ナイロン/スパンデックス、綿/ナイロンと他の材料のための約2,000万セットの製品を生産している。

今後は、国際基準に基づき主に欧米の顧客のOEM生産から自社ブランドを開発し、スポーツウェア分野に進出する。

・達利集団の概要

High Fashion Co.,Ltd は、中国においてシルクの粗原料から選別し、製織、生地開発、デザインファッション、ブランド開発、縫製を行い、香港を基地として世界に販売しているグローバル企業として高い評価を得ている。1978年に設立され、女性と男性製品、ニットウェア、スポーツウェア、ネックウェアとインテリア、ライフスタイルに関わる家庭の家具などシルク製品専門企業と発展し、1992年に香港証券取引所に上場された。

中国では、最も最先端の技術および施設を所有し、生地開発、ロールプリント開発、デザイン、ファッション、ブランドを高め科学とテクノロジーによって世界の有力企業に位置付けられている。工場は、広東と浙江を中心として、公認のISO9001を2000年にISO14001を取得している。生地の自家検査では、AQL2.5の国際基準を採用し完全顧客の需要を満たしている。

特に 高いファッションの高揚については、イタリアから専任のデザイナーを招聘し、最新IT器材を導入し続け、ブランド商品を世界に販売し、シルクの織物と衣服での世界でのリーダーシップの役割を果たしている。香港に本社を置き、中国の主要都市に支店、海外には台湾、ニューヨーク、イタリア、ロンドン、フランスを拠点としてシルク製品を世界に輸出している。

・杭州富強絲綢有限公司の概要

本社、工場は、1994年に蕭山経済開発区に杭州富強絲織廠、浙江省絲綢集团公司、萊蒙貿易、華潤（HK）絲綢有限公司の共同投資により設立された。投資金額は480万米ドル、敷地面積4万平方メートル、工場築面積3万平方メートル、従業員170名で貿易輸出権を取得している。生産品目は、ニット衣料を始め生糸、撚糸、先染め糸、白生地、サンドウォッシュ織物、トリコット編物などが中心で生産商品の約80%を日本、韓国、香港、欧米向けに輸出している。（精練整理加工機チーズ染め機を保有。）

「団結、効率、信用、開拓」をモットーに生産手段、品質管理を強化し、国際市場動向把握に努め、需要に応える高品質な商品の生産販売を行っている。今後は、日本への輸出をベースに欧米市場を重点的開拓して国際市場への量的拡大より市場にあった中・高級品の輸出販売を目指している。

過去、対日向けの和装用の裾もの（羽二重、綸子など）を中心に生産していたが、このころからノウハウの蓄積、将来を見据えた粗原料から製品までの一貫生産を手がけ、現在では投資金も完済し、100%自己資本による民営企業である。カットソーの婦人衣料はフォーマルドレスからセーター、カーディガン、タンクトップなど一部自社デザイナーによるブランド品を持ち、広く各国の需要層に応える格上商品を提供している。

以 上

参考：東桑西移の政策概要

- ・主要工場、会社の責任者が述べた東桑西移の概要を要約しました。

農村と都市部の貧富格差是正を図り、中国が抱える8億人の農民の経済力を高めることを目的として、社会の安定に努める。中国全体の発展を阻害する要因である農業、農村、農民の三農問題をシルクについては、主要産地の山東省、江蘇省、浙江省など東部沿岸地域から中・西部地域へ移転し、東部地域は、品質を高めた付加価値の高い世界的ブランドの育成を図る政策です。

商務部による「東桑西移」（東部地区の養蚕業の西部移転）政策は、2006年から始まり現在も実行されている。ただし、当初のように事業に対する財務部の資金援助は行われていない。「東桑西移」プロジェクトは、東部企業による中・西部での養蚕・シルクの貿易・工業・農業を一体化した企業の建設を支えることを目的とし、目標として「第11次5ヵ年計画」期間に中・西部地区で200箇所の先進技術、市場サービスネットワークシステムを持つ健全な養蚕基地を建設し、大規模な養蚕・シルク加工企業に発展させる計画です。

国全体の「東桑西移」政策は、特に雲南省と広西チワン族自治区の養蚕の技術革新を進め、新製品の開発で養蚕業の健全な発展を促進させる。「東桑西移」政策の重要性は、国家経済の発展、中国の伝統的な産業と結びつけ、中国のシルク産業の促進のための安定した持続可能な開発、中・西部地域の農業、農村部の経済発展の産業構造改革の推進、農民の収入増加、新農村建設が非常に重要な意義を有することです。農家の所得の増加や中・西部地域の経済発展を促進する中国のシルク産業の持続性の要因は、非常に重要な理由の伝統文化に根付いている。ただし、中・西部の省や自治区の人的資源の広大な地域が、気候、砂漠化や廃棄物などで乾燥し、土地利用がいくつかの作物、換金作物の成長に困難な一面を持っているが、広西チワン族自治区の養蚕産業が急速に発展したのは、海外援助や浙江大学、浙江省農業科学院の養蚕業に関わる技術刷新に取り組んで開発が進み成功している。

中国の強力な資源、生産、加工、実務家の協働によって、繭・生糸の生産が世界全体の70%以上を占めている。近年では、国や国際機関の海外援助の多くは、インド、ブラジル、東南アジア、中央アメリカ向けられており、中国のシルク産業の国際競争力を向上させるには、国内の投資を増やして、中・西部の省と自治区の産業構造を改革し、シルク業界を調整し健全でかつ安定的な発展を確立することが重要であり必要である。

以上

七、市場調査団員の報告

中国市場調査の報告

株式会社G S I クレオス 宮崎 満

当委員会のテーマである「シルク需要の掘り起こし」を起点として、あらためて中国におけるシルクの事情調査を目的として行われた。訪問地は杭州地区から西安、南は南寧市と正に絹の生産地を、また訪問先は各々の会社から縫製製品工場、製糸工場、染色工場、更に小売店舗、市場と満遍なく視察した。

全体として中国は、シルクの専門店または市場、あるいは製品の工場でシルク扱いが90%とか40%とかの生産であったりして、日本よりシルクは一般的で特殊なものであるという様子は感じなかった。また製品の輸出では日本というよりやはり欧米向けが大きく地位を占めていた。

一番参考になったことは、私としてはやはり南寧での繭からの製糸工場である。聞けば生産量において12セットは大きいという。等級は4Aということであるが、一つの繭から取れるメーター数(700~800M)も日本の満足レベルではなさそうで品質としては最上ということではないようである。他の省でもあったが、当製糸工場や広西自治区のシルク会社で、非常に参考になったことは原料として繭の産地、農家等の事情である。このことは生糸の生産、価格、品質等相俟って正に日本向けに密接に関係するところである。繭の生産量はやはり減少傾向にありそうで、逆に製糸能力は過剰気味で在庫増にもつながっているようである。

他の農産物の価格とも関連して、繭も農家に対して一定の水準価格を維持(保護)する必要性もあるとの事情もわかった。いわゆる原料高の製糸安の状況も窺えた。製品等の輸出も20%程度ダウンしており、日本向けも22%ダウンとのことで(CATHAYAでの話)、内需に力をいれているとのこと。真綿の布団用に明るい兆しがある等は各訪問先どこでも共通した話であった。

これらのことから察すれば、減少していく繭、製糸能力とのバランス、結果としての価格の行方、品質の維持向上、需要の見通し(輸出含めて)、内需の拡大対策等、輸入に頼る日本としてはどう受け止めるべきか?それなりの品質、価格等で日本を満たそうと思えばやはり製品での需要啓蒙と常に中国の事情把握につとめる必要があるの

ではと思われる。

今回も広範囲、多くの訪問先と過密スケジュールでしたが6日間皆無事にて大変有意義な視察であったというのが率直な感想です。皆さんご協力本当にありがとうございました。

以上

中国市場調査の報告

北西産業株式会社 吉岡正博

2009年10月17日、南寧絲綢（集団）有限公司の金仲華副総経理の案内で、養蚕及び製糸を営んでいる戸受坤薫社長の会社横县桂华茧丝绸有限责任公司に訪問する事が出来た。種々懇談の中で、国の方針として、東桑西移のプロジェクトが進み、広西チワン族自治区に中国一の養蚕大産地が出現した意義は大きく、今後のシルク業界に大きな貢献が期待される。

戸受坤薫社長の経営理念は、先ず、横県農村労働者の生活を第一に考え、農民が、桑の生産、養蚕、製糸、稚茸の生産と、一年を通して、季節に応じた仕事出来る様、合理化を図り、生産性の向上に努力することであった。

広西チワン族自治区では、現在、生産許可の資格を有している製糸企業は73社17万錠になっている。

- 会社の設立：2000年
- 桑面積：9年かけて、現在、8000畝から4.5万畝に成長、村の総面積は10万畝
- 労働者：800名、内、約700名は製糸関係、残り、100名は養蚕管理
(5月～10月)と稚茸管理(11月～4月)
- 製糸工場：製糸機：10セット 年間生産量 生糸 約365トン
玉糸用製糸機 8セット 年間生産量 玉糸 約300トン
玉糸用製糸工場は、広西自治区で一社のみ
- 養蚕：年8回1令～3令まで稚蚕共同飼育、4令～5令まで農家で飼育
- 繭単織度：2.1D～2.3D 平均2.2D (D=デニール)
繭は小ぶりで、織度が細い、大中節、小節が少なければ楽しみの出来る繭
但し、選別が重要。

参考として、三眠蚕は、繊度が1.65D～1.76Dで、大中節、小節が少なく、高格の5A～6Aの生産も可能

- ・ 繭の買取場所：10箇所 横県の集繭場所
- ・ 繰糸繊度：購買者の要求によって繰糸、
生糸 20/22D21中、25/27D26中、27/29D28中
玉糸 100/120D110中
(製糸に関しては、日本人の木下先生から指導を受けている)
- ・ 繰糸小枠回転数：1分間 150回、生糸単繊度が細いので、低速回転により良質の生糸生産可能
- ・ 揚返し：繰糸機の小枠から生糸を乾燥しながら大枠に巻き取る生糸の切断は見ない
- ・ 繭倉庫：夏繭が貯蔵され、毛羽付きの状態、袋に詰め保管
- ・ 選繭所：選繭は肉眼検査のみ、外部汚染繭、穴あき繭、玉繭、奇形繭を選別する簡単なもので、内部汚染繭、薄皮繭、ぞく着繭等も同じく選別されればと感じた
- ・ 販売先：国内の需要で、現在は、選繭は簡単に、約2A～3A格で販売
- ・ 乾繭糸歩：32.3%～33.3%、解除率 60%～70%、各生産地により多少差違あり
- ・ 広西省繭生産量：2007年 約205,000トン
2008年 約179,000トン
2009年 約140,000トン

特に、2008年後半より、生糸価格がUS\$22.00前後まで下落し、2009年5月頃まで回復せず、又、農民の繭生産コスト割れや、春の干ばつ等により、大きな減産になった。

横県の訪問は非常に興味を感じました。細繊度で小振りな繭の単繊度は2.2D中心と聞き、大中節、小節が少ないのではないかと考える。繰糸前の選繭を完全に厳選に検査、粒揃に選別した繭で25/27D、26中を繰糸して、中国の輸出検査を受けた場合、5A格～6A格に合格するのではないかと思われる。参考までに、三眠蚕は、5A格～6A格に合格している。

私の提案として、新しい広西省のブランドを作る為に、是非、研究してみたいかがでしょうか。

以上

中国市場調査のレポート

松村株式会社 松村 滋

2009年10月13日～18日の中国市場調査について、訪問先を調査目的別に大きく2つに分けて報告することに致します。

1. 中国 養蚕・製糸業の現状
2. 中国 シルク業界（織物・織物加工・縫製製品）の目指す方向。

1. 中国 養蚕・製糸業の現状

(A) 浙江凱喜雅集団 (CATHAYA) 10月14日 AM:9:30

全国繭生産量の推移 (単位:万トン)

1995年	76.0	2003年	61.0
1996年	47.1	2004年	55.0
1997年	42.3	2005年	62.2
1998年	47.5	2006年	73.9
1999年	44.7	2007年	78.0
2000年	50.1	2008年	65.8
2001年	60.2	2009年	50.0 割れ予想
2002年	64.5		

浙江省の繭生産は1993年、94年がピークで14.0万トンの生産を行ったが、2008年には7.4万トン（1994年比53%）となっている。

1995年の四川（20.3）江蘇（18.6）浙江（12.2）の第三位から2008年の広西（17.1）江蘇（11.8）浙江（7.4）と同じく第三位ながら生産シェアは大きく11.2%まで下がっている。2008年9月の世界金融危機の影響を大きく受け、2009年の全国繭生産は20%強減産の50万トン割れは避けられない、との事。

浙江省の繭・生糸の生産は全国シェアの10%以下となってしまったが、シルク産業全体から見ると、織物・製品を含めて50%のシェアを持っているとの事で、長い歴史に培われたシルクに関わる産業インフラと、貿易立地を生かしたポジションは変わらないものと思われる。

(B) 陝西開成投資実業有限公司 10月16日 AM9:45

陝西省の繭生産は内陸部にあり、昔から米の取れない所で他の農作物にもあまり恵まれない地域であり、1995年の1.8万トンから2000年1.5万トン、2008年1.8万トンとほとんど変化の少ない地域である。(全国シェア2.8%) 製糸工場もピークの16工場から現在12工場へと減ったが、繰糸機セット数は逆に増えているとの事で、繭生産と共にあまり変化はなく、地域性を表している。

しかし近年は、インフラ整備が進む中、労働者の流動化と平野部の養蚕減少の中で2009年秋繭、価格1,200元/担でも他の農作物(カキ・リンゴ等)と比較して、増産意欲には繋がらないとの事。

(C) 横县桂华茧丝绸有限责任公司 10月17日 AM9:00

广西蚕丝绸(集团)有限公司 10月17日 PM1:30

広西自治区の繭生産は2005年から始まった政府の「東桑西移」政策のもと、

(単位:万トン)

1995年	2.1	2000年	3.0	2004年	9.2
2005年	14.8	2007年	20.0	2008年	17.1

2007年には全国繭生産の25%強を占める様になった。横县桂华茧丝绸有限责任公司も2000年に繭の生産からスタートし、製糸(生糸生産)は4年目ということであった。現在生糸10セット、主として国内販売、玉糸8セットは100%輸出している。現在広西自治区の製糸工場は約80工場あり、广西蚕丝绸(集团)有限公司配下の工場は2工場(来年1工場新設予定)であるが、約2/3の工場は広西省外(浙江・江蘇・山東省等の丝绸公司、又は、有力製糸工場)からの資金と技術により、運営されており、地元での操業のみならず、乾繭で他省へ転売されるものも相当あるとの事。しかるに養蚕・製糸先進地域からの技術移転も、今後共スムーズに進むと思われる。広西自治区でも2009年の繭生産は大幅な減産(08年比30~40%減?)との事であり、春の干ばつ(影響は減産の10%以下)があったものの、2008年の平均生繭価格が800元/担まで下がった事が減産に繋がった。

2009年の広西自治区の年間平均繭価は1,200元/担ぐらいになると予想されるが、近年農民の意識の変化は大きく、1,200元/担では生産の維持が出来ても、なかなか増産までには繋がらないとの話であった。広西省の農作物の1位はサトウキビ、2位が養蚕との事であった。

广西蚕丝绸(集团)有限公司 藍総経理の話によると、5年前に広東省丝绸公司より55%の出資を受け、今後の発展にそなえている。

政府の「東桑西移」政策により、急成長した繭・生糸生産の優位性を生かして(現状では製糸以降のシルク産業は皆無の状態)シルク加工工業団地の開発構想を持っており、近い将来、沿岸地区の労働者不足・賃金アップも想定し、国内シルク産業先進地域、又

は、海外からの企業誘致により発展を加速させる考えの様であった。

【まとめ】

やはり政府の「東桑西移」政策は確実に進んでいる様であり、浙江・江蘇のみならず、内陸に位置しながら1995年には繭・生糸生産のトップであった四川省（20.3万トン）は2007年には6.9万トンまでに減っており、その地位を明け渡している。片や広西自治区は2007年全国繭生産78万トンの中で、20万トンと25%のシェアを占め、2008年全国繭生産65.8万トン、2009年50万トン割れが予想されるものの、広西自治区のシェア25%以上は変わらないものと思われると共に、繭価が回復すれば、まだまだ増産の可能性がある数少ない地域である。今後、繭・生糸生産のみならず、年間の収繭8回又、労働力の優位性の点からも、今後製糸以降のシルク産業への発展の可能性は大きなものがあると思われる。

訪問時期は全国の秋繭収繭がほぼ終了した頃に当たり、春繭から大幅減産が続いている中、秋繭についても予想通りの大幅な減産で終わった様であった。

10月19日以降、杭州市で開かれたシルク交易会後も減産をはやしたてる中で、ますます糸価は高騰している。

「東桑西移」政策がとられる中、世界景気回復期にあたる、2005年からの増産、2007年の78.0万トンのピークを経て、需給調整が再び始まる中、2008年9月のリーマンショック後の世界経済の縮小の中で調整は加速し、全国収繭量は2000年の50.1万トンを割り込むのは必至であり、2010年の春繭収繭までの端境期の中で、歴史的な世界の生糸需給の調整と、需給に見合う適正価格の値探り相場は当分続くものと思われる。

2. 中国 シルク業界（織物・織物加工・縫製製品）の目指す方向

(D) 華鼎集団控股有限公司 (CHINA TING GROUP) 10月14日 PM2:40

HKの上場企業で創業時よりシルク中心に事業拡大し、2005年頃まではほとんどシルク製品で米国・欧州を中心に輸出してきた。（2005年のシルク製品輸出ランキング1位との事。）その後、シルク100%のマーケットは成熟市場となり、これ以上の拡大は望みにくいとの判断から、他の繊維製品にも力を入れてきた。

2008年度は扱い高に占めるシルク製品（シルク交織・シルク混紡も含む）は40%までになっている。（2008年シルク混を含む輸出は2,000万枚、3億ドル）

近年の化学繊維の発展は非常に速く、それに対してシルク100%の製品は礼装用、パジャマ、インナー等に限定され、大きな発展は望みにくい。

今後共、シルクには力を入れていくが、シルク交織・シルク混紡の製品拡大に加え、技術的な改良を加える事で、マーケットを拡大する事が大事である。又、世界のどこに需要があるのかも、考える必要がある。中国の経済成長と共に、国内のアパレルのブランドが成長しつつあり、中国のブランド育成にも、今後力を入れて行く。

(E) 浙江凱喜雅華豪針織有限公司 10月15日 AM9:45

浙江凱喜雅の100%子会社で2003年9月設立

ニット工場で主にインナーの生産、ニット織立、染色、縫製の設備を備えた一貫工場。日本向けは約35%（ワコール・トリンプ・アツギ・ルシアン・シマムラなど）、他は米国（ウォールマートなど）が多い。100%シルクのインナーが少しある。今後はインナーからスポーツウエアにも力を入れていく。

(F) 達利（中国）有限公司 HIGH FASHION (CHINA) CO.,LTD 10月15日 PM1:30

こちらもHK上場企業で設立31年の企業である。設立時よりシルク専門の企業であるが、すでに生産は全て中国に移している。浙江・江蘇・広東等にも紡績・織物・染色整理・縫製工場を持つと共に、HK・NY・ロンドン・ベニスにも支店を持つ、グローバル企業である。現在総経理はイタリア人との事。米国・欧州への輸出が80%を占めており、日本向けは5%以下と少ない。

生産の80%はOEMであり、シルクの扱いは交織・混紡も含めると、織物・ニット・染色までは90%となっている。縫製については、他繊維の製品にも力を入れていく。

元々、シルク専門の企業らしく、自社又は、子会社で生産設備を持ち、常に新しい機械の投入もなされており、シルクの染色・加工技術はかなり高度なものがあるものと思われる。自社工場内に繊維検査設備を併設しており、現在米国基準・欧州基準両方の検査を行っているとの事で、まだまだ、シルク（交織・混紡含む）の染色・プリント生地での輸出も多い。

今後はシルク専門企業として、シルク需要拡大の為、

- ① シルク交織・シルク混紡織物のさらなる開発と、新しい加工技術（機能性を高める為の加工）の開発に力を入れる。
- ② 中国向けのブランドが育ってきており、今後ますます発展が期待される中で、国内向けブランドへの生地・プリントの供給にも力を入れていく。
- ③ 又、今まで海外のOEM中心であったが、今後は自社ブランドの製品の開発に力を入れ、国内マーケットのシルク需要の拡大を目指す。

【まとめ】

今回の視察の中で3社のみを取り上げたが、中でも華鼎と達利は共に創業時よりシルクを専業としてきたHKの上場企業である。生産は全て中国に移しているが、米国・欧州向けの輸出が中心であるグローバル企業である。

〈今後のシルク製品の展望〉

- 1) シルク100%の製品については既に市場は成熟している。価格も高くなる為、製品アイテム・需要拡大も限られる。又、シルク100%の製品の機能面でのデメリットも、化学繊維の開発が飛躍的に進む中で再確認されつつある。
- 2) シルク交織・シルク混紡織物の取扱いの拡大は既に両社共に進んでいる。今後天然繊維との混紡・交織のみならず、他の化学繊維との混紡・交織も大いに期待される。
- 3) シルク交織・シルク混紡織物についても、染色加工のみならず、後加工（起毛・コーティング・その他の風合加工）も今後のシルク需要拡大を計る為の大きなポイントであり、両社共に今後の技術開発に力を入れている。
- 4) シルク製品の需要が、世界のどこにあるのかについても、両社は今までの欧米マーケット中心から他にも目を向け始めており、特に中国の経済成長が加速化する中で、中国国内ブランドの誕生と発展に相当期待しており、自社ブランド開発も含めて、シルク需要の拡大の為、国内ブランドの育成に重点を置く様に感じられた。
- 5) 両者はシルク業界では絹織物・シルク製品の代表的企業であり、販路を世界に広く持っている為、世界のトレンドには情報も早く、その分世界の大手小売業者からのシルクに対するニーズも取り込めており、技術開発にも積極的に取り組んでいる。
- 6) 両社共ユニクロからの要望で「洗えるシルク」の開発にも取り組んでいる様で、そこそこの段階まで来ているとの話も象徴的であった。

日本の絹業の歴史は長く、養蚕・製糸のみならず製織・加工技術においても、先進国であったが、長い間の規制の中でグローバルな展開に参入出来ている日本のメーカー・業者は非常に少ないのが現状である。もちろん両社が中国本土を生産地として発展してきたHKの上場企業という優位性はあるものの、その自社生産設備背景とグローバル販売チャンネルは、日本絹業界の企業の想像を大きく超えたものがあり、悔しく思う反面、両者のシルクに対する技術開発意欲と、努力を目の当たりにしてシルク産業の可能性はまだまだ大きなものと、大いに力づけられた次第である。

以 上

【杭州市市場調査】

SILK CAPITAL (シルク製品の専門店)

観光客向けの売り場という感じだが、よくある大型工場やシルク博物館などに併設された土産物売り場のイメージである。最近では、中国国内の北京などからの富裕層が杭州はシルクの産地という事で旅行に来た時に購入して行くという。店員もシルクの生地などの専門知識がある。シルクサテンプリントブラウス RMB 660元 (J ¥9,200) など決して安くはないが縫製レベルは日本向けには通用しないのでは？

シルクサテン表地裏起毛のパジャマRMB 2,000元は日本ではあまり販売されない商品もあった。シルクプリント生地切り売りRMB 160元/mなど。中国国内で今よく売れているシルク綿の布団もあり、真綿布団より軽く体に沿うらしいとの事。

杭州中国シルク城 (鳳起路)

シルク生地、製品の間屋街で、道を挟んで両側に古いお店、お土産屋さんが並んでいる。シルクストールや生地の切り売り、半端物など内容はかなり良くない。これが商売として成り立っている中国はある意味ですごいと感じた。

【企業訪問】

凱喜雅集团公司 (CATHAYA)

(浙江シルク事情の懇談会) 浙江省シルク会社が民営化し、2008年4月新社屋が完成した。貿易関連会社16社、工場関連会社27社を有する。関連会社を含む従業員数は1万人に及び、会社規模としては全国200位内、浙江省10位内に入る。2008年度売上8億3,600万ドル (RMB 60億元) 輸出は昨年比減少している。

業務内容は、貿易、生産 (紡織織物) 不動産、対外投資 (中国国内) に分かれる。全国の繭の生産量は2008年度62万トンで、2009年度は20%~30%減少して50万トンにも及ばないと予測される。干ばつなどの天候事情もあるが、主な原因は昨年

糸値が20万元以下と安値になっており、養蚕農家も他の農産物価格が上昇する中20万元以下の価格では養蚕を放棄しだしている。現在糸値は22万元～23万元で取引されているが、まだ上昇すると思われる。但し2006年度37万元あたりまで上昇した時と事情が異なり、世界金融危機の影響を受け価格は上昇し減産していても需要は伸びることは無いという矛盾が起きている。

今後については、浙江省での繭の生産は確実に減少するが東桑西移、広西自治区など西の労働力のまだ低いところへ投資し生産が移っていく事がより多くなり中国全体としては大幅に減少しないように進めていくようであるが、現在は製糸キャパシティが過剰であるようだ。

現在全国のシルク産業、貿易の約50%を浙江省が占めている。

浙江省内にシルク工業に約25万人が従事しており

製糸工場	153社	(半分は稼動していない)	2万トン/年
絹紡糸工場	38社		1.5万トン/年
撚糸工場	20社強		2,500トン/年
年間で生地	2.8億m	、ネクタイ	3億本、
服装	2.5億着、	シルク綿布団	100万枚を生産している。

2006年以降貿易額も年々減少しており中国国内の内需を開拓する必要がある。浙江省は後加工技術に優れておりシルクの弱点を機能面で補う付加価値商品の開発が急務である。またシルクの良さと他素材との交織、交編、混紡により機能、感度ともにアップしていく事がシルク需要の拡大につながる事の事。

杭州藤富絲綢服裝有限公司

伊藤忠ホームファッション(株)80% 中国紅樓集団15% 杭州富強シルク工場5%
出資の合弁工場で1994年に設立された。設立当初は、シルクニット、布帛製品が中心であったが、現在はインテリア製品が中心となり、設備もカーテンや、フトンカバー用に特殊なものがあつた。良品計画が主要得意先で、店頭で販売されているソファ、ベッドなどが見本としてすべて保管されており、サンプル作成時のサイズ等々のチェック用の事。インテリア製品で年間100万枚を生産する。

華鼎集團控股有限公司

2003年設立 シルク製品縫製会社で、浙江省シルク会社の深圳関連子会社から香港に会社設立をし、その後、当社を設立されたようである。貿易（EU、アメリカ向け中心）撚糸、織り、染め、プリント、縫製の一貫工場。シルクを扱う企業としては、捺染縫製ともかなり高水準である。中国国内アパレルとしても10年前からFINITY（？）ブランドでファッションショーを開催するなど知名度は高い。

その他のブランドもアメリカとのライセンス契約など中国国内での店舗展開を広げている。欧米向けの製品輸出としては、'05年以前はシルク中心であったが、シルク関係は現在ほぼ飽和状態である、価格面もあるが素材としての機能面、開発含め綿、麻、ウール、化繊など他素材の方が伸びている。現在、シルク絡みの扱いは約40%で、現在綿、ウール関係の後加工（後整理）工場設立準備中であった。中国では、イタリアなどと比較して後整理いわゆる風合いだしが弱い為、この部分にかなりの設備投資を行い強化するようである。

浙江凱喜雅華蒙針織有限公司

凱喜雅集团公司の関連子会社、2003年9月設立され、元の生産背景である華賽ニット（凱喜雅の子会社）で1999年よりサントーニを設備導入し丸編みの無縫製（成型）をインナー中心に生産開始、当初はグンゼ(株)のボディーワイルドなどメンズを日本の技術指導のもと生産開始したとの事。

現在は日本向け40%（ワコール、アツギ、ルシアン、しまむら等）、欧米向け60%

従業員 編み 50人 染色 45人 縫製 200人

サントーニ 40台 SM8TOP2 38台 SM9 2台

2008年 売上げ 4,000万元

達利（中国）有限公司

香港ハイファッショングループの中国主管生産工場であり、数年前に訪問した際には捺染、染色設備のみの工場であったが、工場を新設し自社ブランドの展示ルーム、縫製工場、ニット（横編み）を肅山に集中させ、浙江省新昌地域には織物工場を有する。グループの従業員数は、約1万1000人、主取引先は、欧米であるが、華鼎集団とほぼ同様。昨年来欧米向けは20%ぐらいダウンしているが、内需に力を入れている。国内アパレルブランドへのプリント加工も増えてきている。

陝西開成投資公司

旧陝西省シルク公司で、紡織品全般、服装の取り扱いが中心。年間売上げがUS\$2500万。商談室に製品サンプルが展示してあったが商品レベルはかなり低いカジュアル中心であった。現在今後の糸値の生産状況などについて見解は、凱喜雅での懇談会の内容と同様。

広西横県桂華蠶絲綢公司

製糸工場で2000年設立され、繰糸機 生糸生産 10セット 365トン、玉糸生産 8セット 300トン、現在養蚕農家との関係が良好であるのは、常に農家の利益を考えているからとの事。この地域の農家では、4～11月は養蚕、11月～4月は稚茸を生産してバランスをとっている。現状は繭が高くタイトであるが糸値が通らないので品質基準を下げざるを得ない。糸の検査機関がないのは、やはり山東、江浙一帯と比較するとまだ感覚が違う。

今回の中国シルク産地の各社を訪問し共通した意見として

1. 現在の糸値では農家は養蚕を放棄する傾向にある。23万～25万元/トンでなければ農家も他品種生産もしくは他産業に移行する。いずれにせよ東（浙江、江蘇）から西へ生産が移っている。
2. 欧米中心に輸出が約20%落ち込んでいる分は内需でカバーする。
3. シルクの販売促進はシルク100%ではなく、他繊維とのミックスが価格面より機能面を考慮して必要と思われる。
4. シルクの従来アイテム以外にも中国国内でもシルク綿布団が大変売れている。

ただ杭州の開発力のもっとも優れた地域と西安、広西とではかなりの違いを感じたが、労働賃の差がその違いほどでもないようであった。

以上

中国視察についての感想

中和株式会社 潘 林龍

今回初めて 新会員として絹委員会の訪中シルク視察団に参加させていただき、心より御礼を申し上げます。

六日間の日程で、宮崎団長様をはじめの業界の大先輩たちと一緒に朝早く出発して、深夜12時頃ホテル着いた厳しかった日程を無事に出来た事と皆さんからさまざまな視点からの質問などの対応をよく勉強になりましたことを改めて感謝したいと思います。

今回の視察についての感想は以下のように報告させていただきます。

1、“脱和装”は今回視察の最大な特点であります。全部12ヶ所を廻って、われわれ今までやってきた和装と全然違う商品つくりと展開の方式を見られ、日本シルクのこれからはどうするか？という大きな課題は何より緊急ではないでしょうかと実感いたしました。

2、時代の変化ともいえますが、世界一の和装が出来る日本も世界一の洋装もかならず出来るはずだと確信します。今から3年後に日本シルク洋装の“経済特区”を創出することが出来るのでしょうか？（場所、設備、資金、行政優待措置、デザイン、市場調査、ユニクロ式販売店などの展開）

3、25年前と比べてシルクの消費量が5%しか残っていないが、シルクに関する人材や技術や設備や他の国より豊富なので、どう集約できるかを洋装絹需要促進事業とともに考えなければならないと思います。

4、雇用と中小企業の振興と同時に 日本シルクの未来を考える実行はわれわれの急務だと思います。

以 上

私の感想

浙江錦旅国際旅行社有限公司日本部 周萌

日本繊維輸入組合から中国の絲綢市場調査を行うことになったので、通訳の依頼のお話しを賜り、日程（案）、団員名簿を頂きまして大変嬉しくなりました。空港で皆さんとお会いするまで、なんとなくドキドキでしたが、お会いして皆さんが普通の旅行者ではなく、ビジネスでの訪中なので緊張するやら、ホットしたことが思い出されます。

私は、大連大学で日本語を学び、通訳が正業なのですが、現在、中国の旅行社に所属していますので、皆さんの国内飛行機便、ホテル、ご招待以外の食事の場所、料理内容などをかんばって手配しました。私は、西安、南寧は初めての出張になりますので、現地とたくさん打合せを行いました。通訳については、資料を頂き勉強しましたが、繊維それからシルクなど専門用語があり、大変不安でした。皆さんの手助けを頂きましたが、あまり、お役に立てなかったのではと反省しております。

今回は絲綢服装城のシルク市場の視察、会社との懇談、工場視察がほとんど、観光、おみやげを買う時間がまったくありませんでした。でも、移動のバスや飛行機のなかで、皆さんが大変優しく私の生まれる前の中国のことなど多くを教えてください、考えますと大変勉強になりました。

六日間は本当にあっという間で、この一週間いろいろ繭とシルクにつきまして少しでも分かって来て、本当に良い勉強、良い体験をすることができました。皆さんとお付き合いさせて頂き、心からありがとうございましたと申し上げたい気持ちで一杯になりました。

最後に帰りの空港に近づくにお別れのことばをたくさん考えていましたが、多くの縁に結ばれて今日あることを皆さんが教えてくださったことを考えましたら、感極まってしまい泣き崩れてしまいました。またいつか皆さんとお会いできますよね！その時まで楽しみにして待っております。

最後に私の故郷の詩を謳います。

江南憶ひ 最も憶ふは 是れ杭州 山寺の月中に 桂子を尋ね 郡亭の枕上に 潮頭を見る

作：白樂天

江南：揚子江南の水郷地帯、山寺：靈隠寺か天竺寺、桂子：木犀、潮頭：錢塘江の逆流

《随 想》 「新シルクロードを訪ねる」

周 萌

中国の西漢時代、張騫という人により、シルクロードを開拓しまして、シルクの貿易ができて、中国のシルクは世界で流通し始めた。だが、この世界のドアを開いた古い道は2千年後の現代社会になって、いろいろな障害があり、歩いているシルク商人達はなかなか進めなくなりました。いくらシルクの良さを呼びかけてもシルクの不況は依然として引き続き、改めて国内外市場を開拓することは多分、目の前の任務だろう。

ため息するよりは動力に変え、シルクという物はただの商品じゃなく文化と歴史の証拠品、先祖達の知恵の結晶と見て、シルク発祥地としての東方世界自身も広々な市場があることを信じ、新しい貿易戦略を見つけたら困難を乗り越えられるでしょう。つまり、新シルクロードを訪ねなければならないでしょう。

新シルクロードはどこにあるか？

圧力と危機に迫れ、この伝統産業は“繭を破って”、“繭籠り”から脱却したいのです。農民の養蚕から、シルク商人、貿易会社、科学研究所、政府部門まで、情報交流と相互協力を強め、この文化を永遠に伝えて行きたい。小さい蚕から細い糸へ、何千年に渡って今日の産業になり、こんな大事な人類の遺産は諦めちゃいけないだろう。去年から金融危機の影響でシルクの輸出貿易は猛烈に下がって、シルク営業者にとっては大きいなショックです。収入減少のためだけでなくシルクの魅力も昔のようではないことを認識しました、というのは皆の感想でした。

科学技術は、日に日に発達した今日、伝統産業の注目は返って弱くなり、人達はシルクの良さをはっきり知っているのに、着用する人は少なくなりました。上品、豪華の代表としてのシルクは今現在、安い旅行記念品のモデルになり、一体どういうことでしょう。

1、 中国農村地区の変化

農産物の改良と発展、市民たちの健康志向の高まりに伴って、農産品の価格は大分上がりまして、農産品開発は農村地区の主な産業になる一方、桑の畑は縮めて、養蚕する人と経験ある養蚕者は減少しつつあります。

2、 シルク生地と衣類の価格悪性競争

繭の値段の不安定(一番悪い時は2ヶ月以内生糸20万/トンから13万/トンに落ちて、コスト以下もなってしまった)シルクの低価格競争を起こり、質を問わず、価格のみは

メーカーの間のキーワードになりました。従って、シルクはおごり高ぶっているプリンセスから個性ない若しくはもてないシンデレラに落ちて来ました。

3、シルク製品のイメージ

シルク製品は従来からパジャマ、お祝い或いは宴会用ドレス、インテリア、インナーに限られて、デザインもあんまり変わらないものと思い込んでいる。平日はあんまり着ない利用率が低く、ちゃんとした服装も物凄く高いと若い消費者はほとんどそう思っている。シルク衣類のアフタケア、洗濯はややこしいイメージがあります。

さまざまな原因はシルク産業の発展に妨げているが、シルクを研究、営業する絹人達は絶えず努力して、先祖達の文化を跡継ぎ、双肩にかかった歴史の責任を見て、新しい道、つまり新シルクロードを切り開きます。

タフな道だけど、堅持、信じ、チャレンジしなくてはなりません。

私はシルクに詳しくないけど、一人の女性としての感想を少し纏めたいです。

私はショッピングする時、一番気になるのはデザイン、そして材料成分と値段です。シルクは大好きだけど、百貨店で購入したことはなかった。いままで持っている愛着するシルク服は：100%シルクのカジュアル衣服(紫)ー日本のCOCOONー専門店で購入した、値段は1340*88%=1179元；100%シルクワンピース(オレンジ)ーギリシャのシルク専門店で購入した、値段は120ユーロ*70%=84ユーロ；チャイナドレス(ピンクと黒)ー杭州唐装店購入した、値段は1200*80%=960元

上海で仕事する女性友達ー越ちゃんもシルクのファン(83年生まれ)、四季の服装の半分はシルクです。夏のワンピース、チャイナドレス(5, 6年前“花様年華”という映画の中、女性主人公は20枚以上のシルクのチャイナドレスを着換えしたから、一時ブームになった)から、秋の織物、冬の唐装コート(何年前か江沢民がシルク唐装を着てAPECに出席したため、唐装は一時ブームになった)まで、シルク関連の衣裳は少なくない。最近買ったシルク服も洗濯しやすくなったようです。

私が言いたいのは、シルクというのは誰でも買う気があるものじゃないけど、根強い需要層がいる。若者の消費層でも潜在的な市場があると思いますが、ようはいいものであれば、デザインが今の若者の好みであればというのが前提だろう。もちろん、アフタケアと洗濯方法も皆に宣伝できればいいと思います。値段の方、月給4ー5千元ぐらいのサラリーマンなら、1000-1500元以内は納得できるだろう。

以上の随想、少しでもご参考になれば幸いです。

《あとがき》

今回、絹委員会で計画したのが、中国市場調査で杭州を基点に杭州に戻るという行程でした。各委員の携わっている分野が異なることもありますが、シルクの縫製工場を中心に廻ることでした。縫製品においては、元になる生地、糸、繭の安定価格、品質が求められるところですが、山東省、浙江省、江蘇省などの沿岸地域の経済発展によって、品質の安定的な養蚕業からの撤退を余儀なくされています。中央政府方針の「東桑西移」政策によって、広西チワン族自治区などへ養蚕業が移っていった点を鑑みて、南寧市から一番近い（片道約2時間の行程）横県の製糸工場を訪問したが、養蚕業と政府の農業問題が絡んで単に品質改良に止まらず、多くの問題が山積していた。

欧米に輸出する世界戦略企業である達利集団は、養蚕、製糸は委託での品質管理を行い、それ以降は自家工場での生産を行い、ブランド品を輸出しているとのことで、革新機械を導入し規模、ファッション戦略、情報発信力等において他企業より群を抜いていた。また、同様に華鼎集団においても、シルクの取扱いが減少しているが、他の素材の開発、海外戦略などに優れた企業であった。

この訪中の期間中の杭州、西安、南寧の各都市の中心は、高速道路に乗るまでの大渋滞があり、日本に興味がなくとも、外国からの要人を受け入れたということで、懇談が長引き、工場見学もみっちり、2日目の伊藤忠の子会社の藤富の工場に着いたのが、18時過ぎだった。また、この日訪問先の杭州富強工場は、18日（日）午前となり聞くとところによると振り替えで操業してくれたとのことでした。

今回、**CATHAYA**の呂幸氏、高建明氏、藤富の佐藤弘氏、それから富強の陳張仁氏には訪中に当たり大変お世話になり、さらに通訳、現地でのスケジュール調整、按配に尽力頂いた周萌小姐に、この報告書の場を借りて厚くお礼を申し上げます。また、1990年に当輸入組合が研修生として受け入れた左小宝先生（**CATHAYA** 服装分公司経理）に20年振りに会い、大変懐かしく懇談することができた。

一週間は、急ぎ足の日程であったこともあり、団員からの希望であるいつ、どこに訪問し、誰と会ったかを写真でストーリーにしてはどうかとの依頼があり、私の能力の出来る範囲で報告書に付けましたが、残念ながら1箇所、**广西丝绸（集团）有限公司**のバイタリティーある**藍樹思総経理**との懇談の場の写真を失念してしまいましたので、お詫びするとともに団員の皆様のご協力と大変お世話になったことを心から感謝申し上げます。

事務局

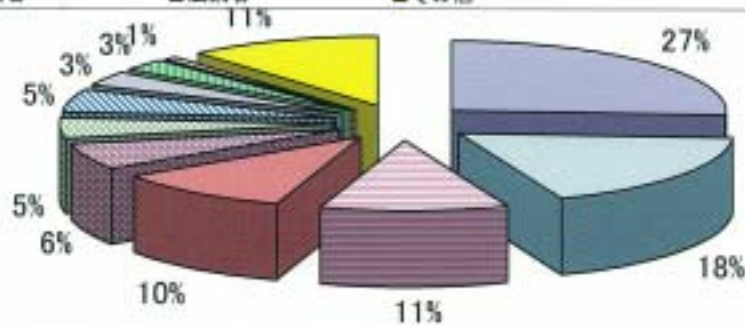
資料

2008年中国省別家蚕繭・生糸生産量

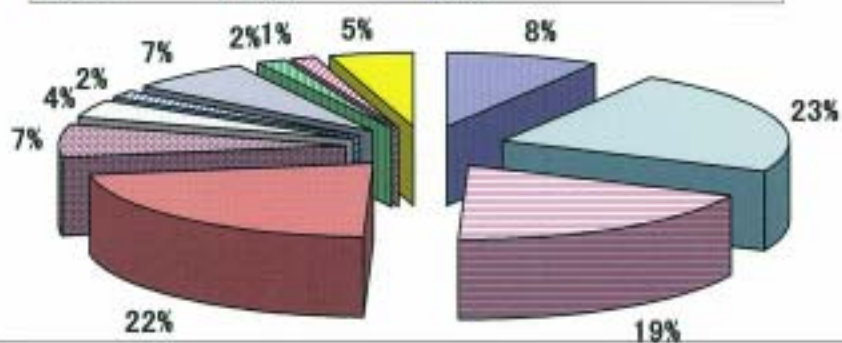
(中国絲綢協会調べ)

地域	繭			生糸			
	トン	前年対比	シェア	トン	順位	俵	シェア
1 広西チワン族自治区	170,907	83	28.0	7,399	4	123,310	11.7
2 江蘇省	117,800	91	17.9	20,310	2	338,506	32.1
3 浙江省	73,882	82	11.2	16,418	3	273,637	25.9
4 四川省	69,000	77	10.5	19,167	1	319,444	30.3
5 山東省	39,700	92	6.0	6,302	5	105,026	10.0
6 安徽省	31,800	82	4.8	3,419	7	56,989	5.4
7 雲南省	34,500	100	5.2	1,462	9	24,364	2.3
8 重慶市	22,140	79	3.4	5,984	6	99,730	9.4
9 陝西省	18,498	93	2.8	1,652	8	27,527	2.6
10 広東省	6,205	76	0.9	1,149	10	19,151	1.8
その他	74,168		11.3	4,143		69,058	6.5
	658,600	84		63,327		1,055,449	

繭の生産割合



生糸の生産割合



中国のシルク相原料の輸出数量

輸出国	2007年				2008年				2009年1-6月			
	トン	前年比	百万US\$	前年比	トン	前年比	百万US\$	前年比	トン	前年比	百万US\$	前年比
1 インド	8,151	257.5	307.5	219.1	5,077	85.6	198.7	95.7	2,314	69.2	69.5	65.8
2 インドネシア	144	45.9	59.7	16.3	133	44.7	23.4	11.9	110	25.4	4.1	28.8
3 韓国	965	143.3	24.1	122.35	949	82.1	14.0	61.7	180	25.4	4.1	28.8
4 日本	111	12.1	21.5	16.1	422	11.3	13.2	33.2	111	61.4	4.7	28.8
5 ルーマニア	488		12.5		1,122	228.3	39.2	247.4	141	23.4	3.6	25.2
6 オーストラリア	482	155.0	11.8	115.1	628	130.3	18.5	137.6	56	13.2	1.6	11.8
7 パキスタン	272	141.7	6.2	122.8	248	33.9	3.6	92.6	82	99.7	1.6	91.5
8 バングラデシュ	231	242.6	5.5	287.2	193	83.1	4.5	82.6	82	92.6	1.6	91.5
9 UAE	218	546.6	5.5	450.9	153	67.9	3.7	67.6	82	92.6	1.6	91.5
10 タイ	18	396.9	2.5	378.2	77	18.5	2.1	98.9				
11 その他	553	197.7	14.2	174.5	579	124.7	14.0	104.7	205	26.5	3.9	28.2
Total	13,751	204.9	207.1	180.9	13,431	17.7	331.7	98.1	3,184	55.2	93.9	51.3
(備考)												
	2007年				2008年				2009年1-6月			
輸出国	トン	前年比	百万US\$	前年比	トン	前年比	百万US\$	前年比	トン	前年比	百万US\$	前年比
1 インドネシア	6811	60.4	20.9	70.2	6163	132.26	21.0	137.9	156	44.1	4.6	49.8
2 インド	502.4	109.8	17.2	105.1	356.7	78.9	12.6	82.1	185	85.3	5.9	73.6
3 インド	477.1	109.8	12.3	89.8	542.8	113.9	14.9	117.5	1,139	694.1	34.6	592.5
4 インド	469.7	59.1	10.7	62.3	627.2	140.9	20.1	110.9	746	73.7	7.9	79.7
5 パキスタン	370.8	114.1	10.3	101.9	416.8	112.4	11.7	114.4	256	145.6	8.7	138.1
6 タイ	121.9	91.6	3.8	82.3	211.7	174.9	4.4	180.1	45	34.2	1.3	21.1
7 韓国	118.7	200.4	3.8	184.4	43.8	37.4	1.5	28.4	58	594.1	2.4	405.3
8 ルーマニア	42.8	133.4	1.7	142.7	63.9	148.9	2.4	145.3				
9 インドネシア	35.3	136.6	0.9	110.8	48.4	137.4	1.3	145.5	25	231.1	2.7	82.8
10 バングラデシュ	28.0		0.8									
11 その他	147.3	151.8	8.6	147.7	107.8	42.7	3.9	98.8	189	97.7	3.2	82.7
Total	2,979	80.3	80.9	82.8	3,405.8	114.4	105.9	118.4	2,929	181.0	78.1	137.5
(前掲表)												
	2007年				2008年				2009年1-6月			
輸出国	万M	前年比	百万US\$	前年比	万M	前年比	百万US\$	前年比	万M	前年比	百万US\$	前年比
1 インド	7,031	136.1	112.5	124.3	5,953	78.4	138.1	78.2	3,205	133.1	73.2	128.1
2 インドネシア	1,091	110.7	107.3	103.5	849.7	115.9	134.3	131.1	1,461	79.2	31.9	48.7
3 韓国	2,652	115.3	114.7	118.9	2,772	84.5	122.8	81.2	783	94.9	34.7	41.6
4 パキスタン	2,031	75.8	41.8	77.6	2,042	80.7	41.8	88.2	1,591	208.3	28.9	172.9
5 韓国	1,959	85.1	73.8	66.5	2,032	87.8	78.5	102.2	821	95.0	28.9	78.8
6 日本	1,232	101.5	23.5	23.5	1,034	101.7	31.6	33.7	1,017	114.3	14.3	11.5
7 オーストラリア	803	80.8	51.7	63.5	835	88.8	48.3	68.8	200	33.9	14.4	55.8
8 ルーマニア	761	23.2	15.9	26.5	718	88.9	18.2	78.9	430	144.8	14.4	211.1
9 UAE	637	104.3	16.8	80.3	626	124.5	22.5	70.7	408	112.1	13.5	108.8
10 タイ	459	163.3	17.2	100.1								
11 その他	2,430	88.3	86.5	80.1	2,985	121.1	125.6	120.8	2,119	88.1	71.9	81.2
Total	23,489	101.7	739.4	86.8	24,934	101.2	933.7	124.1	12,031	101.3	346.3	81.4

出所：中国海関統計



买方自助交易服务系统

[首页](#) [资讯中心](#) [交易中心](#) [物流中心](#) [客服中心](#) [营销中心](#) [会员论坛](#) [ENGLISH](#)

国内行业信息

日本丝绸企业代表团到我市市场参观考察

广西大宗茧丝交易市场 发布时间: 2009-10-18 11:46:41

10月17日下午,以宫崎满先生为团长的日本丝绸企业代表团在广西丝绸集团副总、金副总等陪同下,一行14人莅临我市市场考察。市场常务副总裁陈晖、总裁杨和宇、总工程师傅晓霞等领导向日本客人表示热烈欢迎,并介绍了广西大宗茧丝交易市场的发展历程,以及市场围绕“重丝现货定位”,开展撮合的交易,对交割货物进行个性化配对等措施。市场在行业内的影响越来越大,认可度越来越高。2007年以来,茧丝交易量不断刷新纪录。日本企业代表们对中国茧丝流通情况均有浓厚兴趣,对我市场茧丝流通运营模式、时间优先价格优先的交易撮合竞价制度、灵活的交割制度、完善的风险防范措施等进行了充分了解,表示今后双方对有关茧丝生产的销售情况加强沟通与交流。日本企业代表介绍本国国内丝绸生产销售基本情况,包括其生丝生产主要依赖从巴西、中国等国家地区进口,对生丝质量的较高要求等。就主双方就国际丝绸进出口形势、行业发展等共同关心的问题进行了热烈的探讨。通过面对面的交流增加了中日两国茧丝生产流通业相互间的了解与认识。

日本丝绸企业代表团成员来自日本的进口商、服装制造商等部门,来访主要目的为对中国丝绸市场进行调研。此前,代表团已在浙江、陕西、广西等地工厂、桑蚕基地实地参观考察茧丝、服装生产流通情况。



代表团在市场合影

编辑公告

- [关于网买方会员收取的...](#)
- [关于2009年10月...](#)
- [关于2009年10月...](#)
- [关于恢复会员交易自...](#)
- [关于扩大干茧交易范围...](#)
- [关于2009年9月2...](#)
- [关于国庆节假日及调整...](#)

[更多>>>](#)

行业公告

- [10月28日各地现货价格 10-28](#)
- [高层秋感乘言收获成功 10-28](#)
- [阿荣旗:“套家家”暖 10-28](#)
- [安康蚕桑稳步发展 10-28](#)
- [生丝价格上涨 丝厂开 10-27](#)
- [10月27日各地现货价格 10-27](#)
- [我国真丝绸商品出口 10-26](#)
- [杜廷洲:纺织业志当 10-26](#)
- [10月25日各地现货价格 10-25](#)
- [南充市南部县采取魄力 10-22](#)

日本丝绸企业代表团到我市场参观考察--中国茧丝交易网



代表团听取市场领导介绍基本情况



日本丝绸企业家对我市场电子蚕茧交易关注